

男女共同参画社会へ一歩いっぽ近づくための情報誌

Pas ā pas

パザパ

No.5
2005.10



特集

半径70センチの生活学



身近な 暮らしのなかで 語り合う 男女共同参画

※パザパ: 仏語で「一歩いっぽ」を意味します

半径20センチの生活学



男女の働き方、家事や育児への関わり方、社会制度や慣行など、取り組むべき課題はたくさんあるものの、男女共同参画社会の実現を目指した歩みは、着実に進んできています。

一人ひとりが尊重しあい、個性と能力が発揮でき、その結果得られる利益も責任も分かち合う社会に少しずつでも近づいていることに、期待がふくらみます。

しかし、この歩みに対していろいろな意見が出ていることも事実です。私たちはこのことをどう受けとめればよいのでしょうか。何か誤解されていることがないでしょうか。どんな社会を次の世代に手渡すべきなのでしょう。

さまざまな疑問や危惧の声もふくめて、松下光恵さん（NPO法人男女共同参画フォーラムしずおか代表）と木村幸男さん（静岡市女性会館運営協議会委員）を囲んで話し合ってみました。

★ガチガチに考えないで!

スタッフ 今、男女共同参画をめぐる、メディアや団体などでいろいろな議論がなされています。「これまでの伝統的な日本の文化や男女関係、家族の絆を破壊するのではないか」という声もあります。松下さんは、女性会館が開設された時から様々な活動をされていますが、当時はいかがでしたか？

松下 当時はそれほど聞かなかったと思います。男女共同参画社会の実現に向けてみんなが力をつけてきたから、こういった意見が出てくるのではないのでしょうか。

以前に委員をしていた市の審議会の中で、「お母さんがきちんと子育てしたほうがいい」「企業は生き残るために、女性よりも休みをとらない男性を優先する」という意見が出て、それはちょっと違うんじゃないかと意見を言ったこともありますが…。

スタッフ なにごとも賛否両論はあっていいのですが、今のこうした議論の背景には、異なる価値観や生き方を許容しないような何かを感じたりするのですが。

木村 しかし反対側に言わせれば、男女共同参画を推進する人たちも、固定的な考えを押しつけてきているという見方はあると思います。ただ、これは誤解なのですが。

身近な暮らしのなかで 語り合う 男女共同参画

スタッフ なぜ多種多様なものを受け入れる余裕がないのか。すべてをひとくりにしようとする動きがすごく怖い気がします。そもそも男性と女性、人間を性別だけで単純に2つに分けることはできないし、一人ひとりの個性や能力を認め合ってそれを生かせる社会であってほしい。

木村 男女共同参画の推進を、男らしさ・女らしさをなくす動きと固定的にとらえているようなところがあって、そこから**ジェンダー**の誤解が生まれてくると思います。

スタッフ 上の世代の伝統的な価値観が厚い壁になっているところもありますが、日常の生活を通して若い世代に感じてもらえたらと思います。男女共同参画は決して「女性だけの問題」ではないということ、すべての男性が気づいていくようになるといいですね。お互いが尊重しあい、協力しあうことによって家族の絆も強まるし、男性・女性ともいい形で地域・社会にかかわっていけたらと思います。

★誰がいつ決めたの？

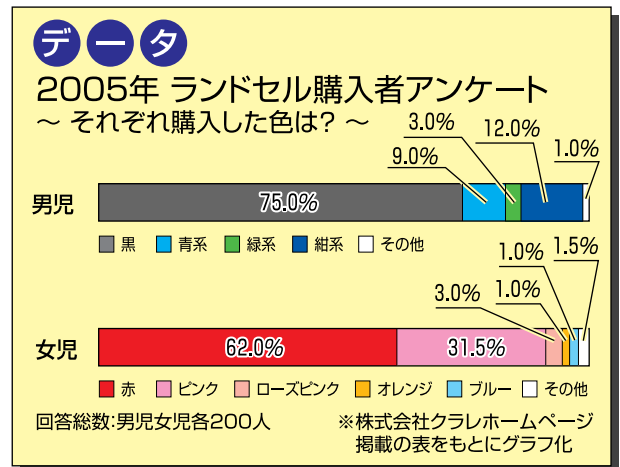
松下 子育てをされていてマスコミ、メディアの影響の大きさを感じました。性別にへんなこだわりを持たずに育てていこうと思ったのに、女の子は少女アニメのTシャツ、男の子は変身モノのグッズを欲しがったりするという現実におつかったのです。

木村 そもそも、お母さん自身が、1～2歳の男の子に赤い服は着せないでしょう。

松下 私は女の子にも青いベビー服を着せていたし、もったいないからどちらが着てもいいような服を着せていました。

木村 孫に赤いサンダルを薦めたら「これは女の子のだもん」。3歳児でもそういうことを言います。母親が教えたかどうかわからないけど、もう刷り込みは始まっています。成長すれば赤いものをカッコよがって着たりすることもありますけど。

スタッフ 幼稚園で、男の子が赤やピンクを選ぶと、周りの子から「やーい、女の色」と言われたりすると聞いたこともあります。そういう刷り込みは、両親だったり、おじいちゃん、おばあちゃんだったりするのでしょうか？



木村 やっぱり幼児の世界では、テレビや両親の影響が大きいのではないのでしょうか。

スタッフ そういう点では、子育てに関わる大人たちが、日々の生活にジェンダーの視点・意識を持って向かい合っていくことが必要だと思います。相手が子どもであっても、固定的な枠にはめたり、決めつけたりするのはよくないですよ。教育はすごく大事だと思います。教育の現場で先生方はどうでしょうか？

木村 実際に先生方はそういったトレーニングはあまり受けていないのでは？ 気づいている人もいるでしょうが、まずは学校における先生と家庭における親がきちんと自覚していないと。

スタッフ 私たち自身も、まずは固定観念にとらわれず自分を知り、自ら考える力を身につけること、また地域の人々、家族や友人たちとコミュニケーションをとったり、時には議論してみるのもよいかもしれません。子どもたちの未来のために、私たち大人ができることはなんだろう、どういう意識を持ってかかわっていけばよいか、もう一度考えてみる必要がありますね。

★ジェンダーとは

社会的、文化的につくられた性差のことで、男女の生物学的性差(セックス)とは区別して用いる。男女の性役割、行動様式、心理的特徴などにおける合理的な根拠に基づかない「男らしさ」「女らしさ」など、個人とは関係なくそれぞれの性によって期待され振り分けられる区別をいう。



松下さん

中嶋さん

市川さん

杉谷さん

久保田さん

木村さん

★あなたもタイヘン、私もタイヘン

松下 学校でPTAの役員を決めるとき、今、働いていない人を探すほうが難しいくらいです。家のこともやりながら働いている女性が圧倒的に多いのではないのでしょうか。専業主婦の方であっても、小さいお子さんがいても見てもらう人がいないとか、自分で育てたいとか、介護があるとかいろいろな事情をかかえておられることが多いと思います。

スタッフ 私は専業主婦を選んだのですが、居心地が悪いなあと感じることがあります。それは経済的に自立で

★男女雇用機会均等法とは

正式には「雇用の分野における男女の均等な機会及び待遇の確保等に関する法律」1986年施行。募集、採用時の男女の均等な取扱いについて定めるほか、配置、昇進などにおける差別的取扱いの禁止やセクシュアルハラスメント（性的いやがらせ）防止に向けた事業主の配慮義務などについても規定している。

★ワークシェアリングとは

働く人が仕事を分け合う就労形態。日本では、多くの人が仕事を分け合うという不況下での失業対策として期待されている面が強い。定年後や子育てをしながらでも仕事をしやすくする少子高齢時代の働き方としても注目されている。

きていないという点です。このことで苦しい思いをしている人も少なくないと思います。

木村 肩身の狭い思いをしている？

スタッフ 最近では、働いているということがPTA役員を断る理由にならなくなりましたが、以前、役員選出の際に「働いていない人をお願いしたい」と言われたことがあります。子どもがいるという点では同じ立場だと私は思っていたのですが…。地域社会の様々な場面でこういうことを経験すると、「外で働いてはじめて評価されるんだ。」というような感覚をもってしまいます。

木村 専業主婦は家にいるから、地域のことはみんなその人たちにまかせきっているというようなことを聞いたことがあります。しかし、働くことも自由、働かないことも自由。働きたくても働けないでいる人も考慮しなければならないと思います。

松下 女性が働くということに関しては、個人の問題だけではなく、社会システムの問題だと、ずっと思っています。

男女雇用機会均等法ができた時も、どちらかという、男並みに働ける女性を認めようというところがありました。

今、自分としては、女性が子育てをして、地域に貢献し、かつ外で働いているように、男性も一緒にやろうよというふうに思っています。男の人の生活も過酷ですものね。仕事ばかりで。

木村 働く社会そのものが変わっていかないと。世界には、オランダのように**ワークシェアリング**に取り組んでいる国

もありますから、不可能じゃないけれども、それにはすごい力と時間がかかる。ただ皆が気づいて行動していかなければなにも変わっていかない。

スタッフ 男女共同参画社会というのは、働いているかいないかのどちらかに有利というのではなく、お互いに自分の生きたい生き方を選択できる社会。どの生き方を選んでも、それに対して社会システムが中立である世の中ということですよ。

松下 専業主婦とか働いている女性とか言いますが、専業主婦だって立派に働いています。逆に、働いている女性が家事、育児をしていないかというそうではないですよ。

木村 さまざまな立場の人が相互理解できる場があればいいですね。たとえば、日本に住んでいる外国人労働者の女性は、生きることに必死です。労働、国籍、その上に女性問題。二重、三重の差別や偏見です。こうした広い視野から人間の問題としてかかわっていくべきだと思います。

★みんな一緒なら ダイジョウブ

スタッフ 女性が子育てに専念しないで外で働くことは、子どもの発達に悪影響を及ぼすのではないかとよく言われます。まだまだ、**三歳児神話**や母性神話は根強いんです。

松下 私は母性というのは最初からあるものではなくて、子どもと向き合うなかで育っていくものだと思います。母親が子どもを思う気持ちも大事だけれど、父親、おじいさん、おばあさん、まわりにいるいろいろな人が愛情をかけることが大事だと思います。

木村 社会通念として、3歳位までのお子さんは誰かがそばにいてケアしてあげたほうがいいというのはあるし、皆さん実感として持っているでしょう。それが短絡的に、「お母さんがいないとダメ!」になるのでしょうか。

松下 私の母は70代ですが、最近まで仕事をしていました。「お母さんはその仕事をすごく好きだ」、「生活のためにお母さんが働かないとだめなんだ」ということが子どもに伝わっていれば子どもは曲がっていかないと、いつも言っていました。

私は、子どもを見てくれる人がいなかったこともあり、仕事をやめ育児をしました。やってみると、夜遅く帰ってくる夫以外の大人とは誰も口をきかないような生活を何年も経験し、閉塞感があって、本当に息が詰まる思いでした。お母さんだけが子育てすべきだと強要するのはものすごく非人間的なことに思えました。

木村 母性とは、親が子どもと向き合うことで育っていくものとしたら、お父さんが向き合えば、お父さんのなかに母性が育っていくはずですね。

スタッフ それが大事だと思います。ただ現実には父親はあまり登場しません。たとえば子育て雑誌を見ても母子のページが大半で。また、子育てもマニュアル化されていますが、その時々でそのマニュアルが違うのですごく混乱してしまう。

一時期、うつぶせ寝とか、おんぶVSだっこ論争なんてありました。そんな些細なことでも笑われるかもしれませんが、母親は孤独に悩み苦しんだりします。その上に「母性」を要求されるとまいってしまう。

木村 現実にはいろいろな問題があって、それをどうしていくかという視点を夫婦、家族、地域と社会全体で共有しないと解決にはならないですよ。みんなが傷ついたり、困っていることに手をつけなければ、「男女共同参画は、私たちにとってなんのプラスにもならない」というとらえ方をされかねない。これを契機にして、自分たちが抱えている課題を具体的にひとつひとつ発見していきたいものです。

★男と女、 半歩後退・2歩前進

スタッフ ジェンダーは、日本人の伝統的な価値観を否定しているというとらえかたをする人もいます。

★三歳児神話とは

乳幼児期に母親が子育てに専念しないと子どもの成長に悪影響を及ぼすという考え方。

子どもの問題行動の原因が幼少期の母親の就労にあるとする論調が強く、女性の就労継続を断念させる大きな原因となっている。1998年版「厚生白書」でこの考え方には「合理的根拠がない」と初めて断定した。

松下 私は男の人にも優しさは必要だし、女の人にも決断力は必要だと思います。一人の中にいろんな側面があるべきだと思います。

スタッフ たとえば、高齢のおじいちゃんが家族の崩壊を心配するというのはいりうることですが、その息子さんは民主的な教育を受けていても、育った家庭での慣習の方が勝っているため、第2のおじいちゃんになってしまう。自分も固定的な役割意識でしばっていると辛くなることはないのでしょうか。

木村 辛いというより、何があっても嫁の面倒はみるとか…そういう責任感で自分を支えているのでは？また、守られているほうが楽だと考える女の人もなくはないですよ。

スタッフ 若いタレントでも、男は黙って我慢みたいなことをいう子がいるんですよ。それがカッコいいと思っているみたい。「妻が働いてもいいけれど、自分は養っていきたい」という若い男の子も、テレビで見ました。

スタッフ 男の子が女の子をリードするというの、漫画から刷り込みが大きいと思います。娘によると、小学生が読む漫画にそういう恋愛ものが多くて、そうするものだと思っていたと。でも、中学、高校になって、実際に男の子たちを見ると、そんなことないとわかったそうです。

木村 世代的には男が家や家族を守るといふより、だんだんフラットな意識に変わっていくと思いますが、旧来の役割分担意識ではなく、むしろ善意で守ってあげたいという人もいて、それが変にプレッシャーになっていくということは起こりうるでしょう。

スタッフ 男の人もいっぱい悩みを抱えていると思います。だから男女共同参画が男の人にとっても肩の荷をおろすチャンスであってほしいと思います。

木村 若い人たちは、僕らの世代とは明らかに違って男

★ 育児休業とは

育児・介護休業法は平成17年の改正で、育児休業について一定の場合、期間が1歳6ヶ月まで延長されることや、期間雇用者でも取得が可能とすることを盛り込んだ。国の少子化対策計画では、10年後、男性10%女性80%の取得を目指している。(平成15年度取得率では、女性73.1%、男性0.44%)

性優位じゃない。街を歩いているカップルを見ても、「私についておいで」みたいな、女性がリード役のカップルが多いですよ。

スタッフ 電車の中で女の子が立っていて、「あんた座んなよ」とか言っているのを見ると、変わったなあって思いますね。

★ちがっていても不安なく

松下 前の職場で、**育児休業**について調査をしましたが、他の世代に比べて20代の男の人は、育児休業を取りたいという割合が非常に高いという結果が出ました。

スタッフ 立会い出産も多くなってきましたね。

木村 今、労働の現場は大変だけれど、結果として、会社よりも家庭や家族が大事だという考え方と、パートナー意識が同時進行で育っていけば、人間・人権を大切にするライフ・スタイルは育つかも知れません。ただし、経済を優先する社会はなかなかそれを容認したがりないでしょうが。

スタッフ でも、男女共同参画というのは国の経済を立て直すために進められてきたという部分もあるのでは？

木村 明らかに労働力が不足するのはわかっていますから、何らかの形で補充していくのですが、日本が世界有数の経済国になったことの裏には、多くの個人レベルの犠牲があったと思います。一方、北欧の国やオランダなどは、GNPや国や経済システムのことよりも人権・個人の幸せを大切にしているように見えます。

スタッフ 今、暮らしを見直すという雑誌がすごく出版されているんです。男の人の早期退職とか、田舎暮らしを楽しみましょうとか。男女共同参画は、ある意味で労働力を確保することが目的だったかも知れないけれど、この流れを利用していけば、人間が生きやすい社会がつけれるかなと思うんですが。

松下 私は専業主婦時代があって、それから地域活動を始め、再就職も…。やっぱり自分の生活のなかに、いろいろな場面があるのは楽しいですね。自分を鍛えてくれる仕事も必要だと思うし、仕事だけじゃなくて、地域活動



でいろいろな人と話をしたり、地域のためにできることをするのも自分の中では満足度が高かった。もちろん、家族と話をするのも楽しい。だから、仕事だけとか、地域活動だけとか、家庭だけとかではなくて、男性も女性もバランスよくいろんな場面を持つことが大事だと思っています。

木村 人が生きていく上での勉強のなかには、家庭でなければできないものもあります。夫婦間の問題、親子の問題。だけど、それで全てじゃない。松下さんがおっしゃったように、社会の中で学べることもたくさんありますから、両方学べたほうがいい。それは強制するものではなくて、したい人やできる人はすればいいし、しない人を排斥したりしないというやわらかな価値観が大切ではないかな。

スタッフ みんな違って、それでいい。

木村 それぞれ違っていいのですが、自分が経験しない領域にもたくさんの学びはあるのだという気づきだけはもっていたいですね。

松下光恵さん: 専業主婦からミニコミ誌編集員、(財)静岡ワークライフ研究所研究員を経て、仲間とともに「NPO法人男女共同参画フォーラムしずおか」を設立。

平成17年4月から静岡市女性会館の講座開設及び図書貸出業務を受託。ここ数年は、静岡市男女共同参画審議会委員として男女共同参画推進条例、行動計画策定にも取り組んだ。

木村幸男さん: 静岡銀行在職中からボランティア活動に参加し、NPO法人「静岡いのちの電話」設立発起人の一人。現在、NPO法人静岡県ボランティア協会理事、静岡市市民自治推進審議会委員、静岡市市民活動推進協議会委員、静岡市女性会館運営協議会委員などを務めるかたわら、広報誌編集セミナー、ボランティア講座などの講師として活躍。

座談会を終えてこう感じました。

こんなに 身近なことだったのか!

今の時代は、生き方も本当にいろいろで、皆それぞれの立場でいろんなことを思い生きているんだと思います。自分も含め、“自分とちがう他人”に気づき認めていくことが大切ではないかと思いました。

男女共同参画というとムズカしく思われがちですが、いろんな立場の人が共にすこしやすい社会にするために何ができるかを改めて考えたいです。
(市川久二子)

先を行くお二人とお話して、自分の中にあつた思いがひとつひとつ形になっていきました。

生活の中で、おや?って思うこと話してみませんか!男女共同参画社会は最も身近なところで普段着の言葉で話せるようになったとき、一歩前進するのです。
(中嶋 三子)

半径70センチというのは、それ以上は立ち入らない範囲でもあるんですね。生き方はそれぞれに任されていることを改めて示された気がしました。こうあるべきと迫られるのは、息苦しいです。お互いを尊重しながらも分りあいたいと願う、境界線はいつでも変更可能..そんな間合いを認め合うことが、共同参画の第一歩かなと思いました。
(杉谷 敦子)

「ジェンダーに対する誤解をなくしたい」という話から始まった特集ですが、男女共同参画をこんなに身近に考えてみたことはなかったかもしれません。自分自身が堅苦しく、ガチガチに考えていたことに気がつきました。誰だって不安なく生きていける社会を願っているはず。形にしばられず、とらわれず、日々の暮らしの中で、そっと隣にいる人に伝えていけたらいいですね。
(久保田さきの)

専業主婦時代、母であり妻であるのは事実ですが「私はここにいます!」という思いがいつも心のどこかにありました。

「ジェンダー」という言葉に出会い、目から鱗。私の悩みは個人的なわがままではなかったのです。半径70センチの男女共同参画社会は、まず家庭から。誰かひとりの犠牲の上に家族が成り立つのではなく、風通しの良い関係づくりが必要ではないでしょうか。
(松下 光恵)

小難しい理屈をこねまわすのではなく、素直に生活の問題点を見つめていけば、そこから「誰もが、他人と違っていても、不安など感じることなく、人間らしく自分らしく生きる道」がみえてくる。

男女共同参画とは、すべての人の「人権を守る活動」だということをもっと多くの方々に知っていただけるよう努力したいものですね。
(木村 幸男)

こども英会話

はっぴーEnglish

英会話学校の講師から独立し、独自のスタイルで教室を展開している嶋麻里さんにお話をうかがいました。

草薙教室設立の際には、評判のケーキ屋さんの2階を借りるため飛び込みで交渉した経験も・・・



子どもの耳は魔法の耳

今、子ども向け英語教育の評価については「発音のよい外国人講師がいい」という時代から日々変化しています。英会話学校で教えていた私は、「個性を持った子どもたちみんなに同じ方法は無理。子どもの生活に関わるものなら何でも教材になり得る。子どもにとって英語は特別なものではない。子どもの耳は魔法の耳。」と強く感じていました。

SOHOしずおかでの出会い

そんな時、所属する女性グループ“ネクステージ企画室”の集まりでSOHOしずおかに出入りするようになり、起業し、活躍している方々を目の当たりにして、「私も生徒一人ひとりを大切に、楽しく、常に最善、最新の英語環境を求めつづける教室をつくりたい」と独立を決心。

最初に開講した焼津市には土地勘がなかったため、電話帳で使えそうな施設を調べ、何十箇所も見て回りました。草薙では、流行っているケーキ屋さんの2階が貸し出されていることを知り、「ここだ!」とひらめき、お願いに飛び込みました。



▲ 半年に一度外国人の先生が来ます



▲ 昨年のハロウィンパーティー

チラシづくりなどPR方法については、SOHOしずおかのスタッフの方にいろいろと教えていただき、「大丈夫です。」という力強い後押しの言葉で不安なく始められたような気がします。

ケーキ屋へワクワクして出かけるように

現在は、1歳から小学6年生までに教えていますが、Babyクラスでは、基本的にお母様に通訳として参加してもらっています。幼稚園児には、いかに興味を持たせ集中させるかということ、小学生は話す(コミュニケーションをとる)ことを目標にレッスンしています。

こだわっているのは、目が行き届く6人定員、レッスン日振替可能制、無理のない月謝設定など。そして何より、子どもがケーキ屋へワクワクして出かけるようにレッスンに来てくれる雰囲気づくりを心がけています。そのために、保護者の方からお子さんの性格や好きなもの、励まし方などを教えていただき、その子に合った対応を心がけています。

また、ハロウィンパーティなどの外国の行事を取り入れたり、オリンピック開催時には世界の国々の名前を、運動会の時期には関係する言葉を覚えたりと、日々の生活に関わることを扱うようにしています。レッスン中は100%生徒のことだけを考えていられる最高の時間です。

子どもたちが将来を見すえて学べるように

以前教えていた10数名の生徒と連絡を取り合っていますが、小学生だった子が大学生になって遊びにきたり、大学受験を控えた子の勉強を個人的に見たりもしています。

英語への関わり方は生徒それぞれですが、今後は、子どもたちが将来を見すえて英語に取り組めるよう「留学準備クラス」「会話クラス」「受験クラス」などを設け、中学生、高校生になってもつきあえるようなシステムを築き、人と人の関係を大切にしていきたいと思っています。また、小学校英語指導者認定協議会の資格を活かして、その分野にも関わっていきたいと考えています。

こども英会話 はっぴーEnglish

TEL.054-257-9288 090-1822-8126

E-mail :komashise5222@r5.dion.ne.jp

草薙教室:清水区谷田17-3ケーキ屋エンジュ2F

焼津教室:焼津市石津161石津防災センター2F

SOHO@しずおか

TEL 054-653-8800 / FAX054-653-8801

ホームページ:<http://www.soho-shizuoka.gr.jp/shizuoka/>

E-mail:info@soho-shizuoka.gr.jp

シリーズ 元気なグループ紹介 No.5

平成17年4月から静岡市女性会館の仕事の一部が
「NPO法人男女共同参画フォーラムしずおか」に委託されました。
“フォーラムしずおか”は、静岡市が10年前に女性の人材育成講座として始めた
「アイセル女性カレッジ」修了生の自主活動グループが発展した団体です。

この春、「平成17年度静岡市女性会館の講座開設及び図書貸出等業務委託」受託者募集に応募し、書類審査、公開プレゼンテーション、公開ヒアリングを経て審査に合格し、4月から静岡市女性会館の仕事の一部を担っています。

市の募集に応募する方向に私たちの気持ちがまとまっていくまでには、何度も話し合いが持たれました。NPOが公共の施設の管理やサービスを担っていく動きは全国に広がっていますが、不安定な受託団体になるのではないかという心配がありました。また、私たちの団体に本当に業務を担う力があるのかも不安でした。結局、私たちはこの募集を「女性の仕事起こしのチャンス」と捉えることにしました。会館の利用者であった私たちならではの、きめ細かなサービスを提供したいと考えたのです。責任をきちんと負って初めて女性にも力がついてくるとも考えました。

夏には、こうした私たちのチャレンジを冊子にまとめ、ヌエック(国立女性教育会館)の「男女共同参画のための女性学・ジェンダー研究・交流フォーラム」でワークショップを開催しました。全国各地から集まった、研究者、行政職員、草の根の女性たち、とりわけ女性センターにかかわっている人たちとの出会いは私たちの大きな力となりました。

受託した女性会館の仕事を誠実にやっていくのはもちろんですが、NPOとしての自主事業にも積極的に取り組んで力をつけたいと思っています。その第一弾として9月23日、愛知、岐阜、三重のNPOの女性たちと協働で「仕事をつくる、わたしをつくる。～女性も社会で輝いて～」というフォーラムを開催しました。上野千鶴子さんをコメンテーターにお願いして、厳しい励ましをいただきました。

私たちは力不足は経験が解決してくれると、明日を信じて頑張っています。

ヌエックでのワークショップ ▶



▼ 女性会館図書コーナー
カウンター



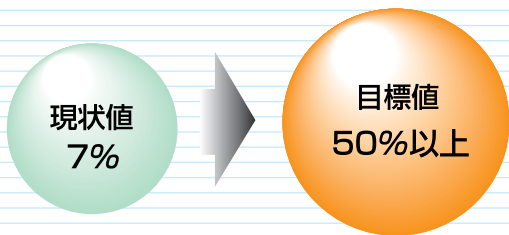
特定非営利法人
男女共同参画フォーラムしずおか
TEL054-248-7401
E-mail:info@forum-shizuoka.net

● 成果の三カタ ●

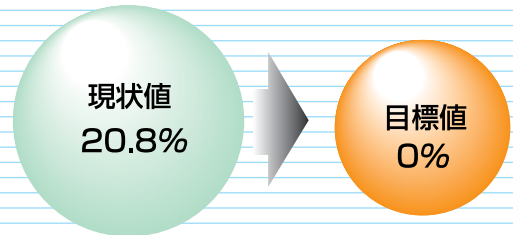
(静岡市の男女共同参画度を測る指標について)

静岡市では、平成16年4月から「静岡市男女共同参画行動計画」を実施しています。
 この計画を推進し、男女共同参画社会を実現していくには、市(行政)だけではなく、市民のみならず、一人ひとりが理解を深め、地域の様々な活動のなかで取り組んでいただくことが不可欠です。
 そこで、行動計画の達成度を測るため、家庭・学校・職場・地域などにおける身近な場での目標を定めました。
 以下でそのいくつかを紹介します。私たちの周りのできることから、目標達成に向けて進んでいきましょう。

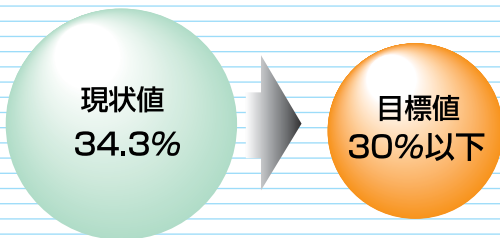
指標1 静岡市男女共同参画推進条例の理念
 または内容を知っている人の割合



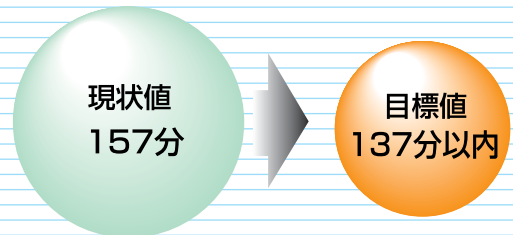
指標6 女性委員のいない審議会等の割合



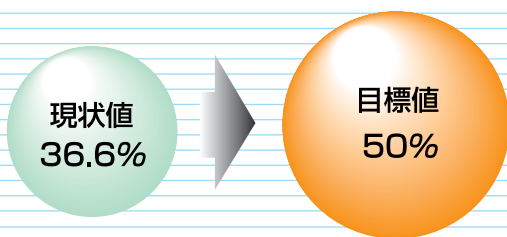
指標2 社会通念・慣習・しきたりにおける男女の
 平等観(男性の方が優遇と感じる市民の
 割合)



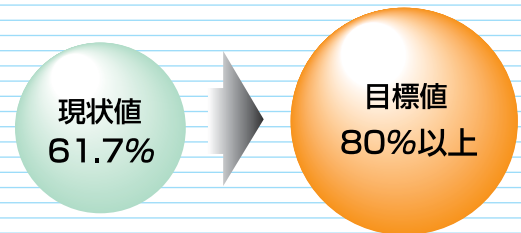
指標11 男女の家事平均時間の格差



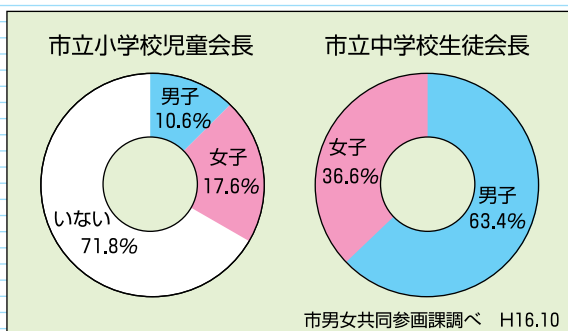
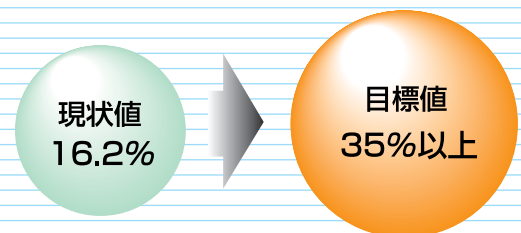
指標3 中学校生徒会長における女性の割合



指標12 男性が育児・介護休暇をとることに理解
 を示す男性の割合

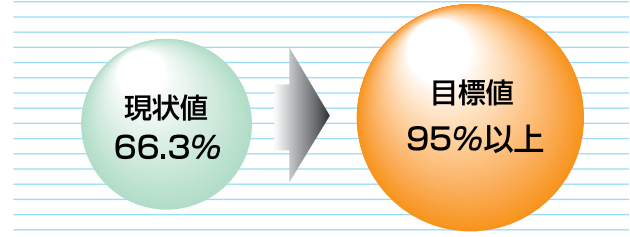
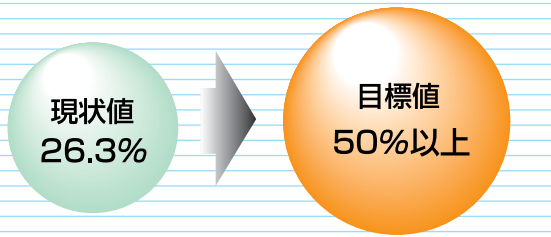


指標14 女性の能力活用について、国連が各国を
 順位づけしていることを知っている人の
 割合



指標16 セクハラまたはDV被害に遭ったときの
相談窓口を知っている人の割合

指標18 妊娠や出産をめぐる女性の健康と権利に、
配慮すべきであるとする人の割合



静岡県男女共同参画行動計画とは

男女共同参画社会の実現に向けて、静岡市が取り組んでいる計画のことです。

概要は、(1)計画期間が平成16年度から20年度(5か年)、(2)計画事業の規模が215事業、(3)重点施策が、

- ①家庭生活とその他の活動の両立支援、②政策・方針決定への女性の参画推進、③女性に対する暴力の根絶に向けた取り組み、④市民との協働による男女共同参画の推進体制、です。

11位と43位

国連開発計画(UNDP)は人類の進歩を測るため、人間開発指数(HDI)、ジェンダーエンパワーメント指数(GEM)などの指標をつくり、世界各国の状況分析、順位づけをしています。

2005年に発表された「人間開発報告書」によると、日本はHDIが測定可能な177か国中11位で高い能力を示している一方で、GEMは測定可能な78か国中43位と、HDIの順位に比較して大きく落ち込んでいます。

これは日本の女性は潜在的に大きな能力を持ちながら、その能力を十分に発揮できていないことを示しています。国をはじめ、全国の自治体において、女性の政策・方針決定過程への参画については、より一層の取り組みが期待されています。

なお、この国連における順位づけの認知については、静岡市の行動計画の評価指標の1つ(10ページ指標14参照)としています。

HDI・・・基本的な人間の能力がどこまで伸びたかを測るもので、平均寿命、教育水準、国民所得から算出。(Human Development Index)

GEM・・・女性が積極的に経済界や政治生活に参加し、意思決定に参加できるかどうかを測るもので、女性の所得のほか、国会(Gender Empowerment Measure)

議員や専門職・技術職、管理職に占める女性の割合から算出。

HDI (人間開発指数)

順位	国名	順位	国名
1	ノルウェー	26	スロベニア
2	アイスランド	27	ポルトガル
3	オーストラリア	28	韓国
4	ルクセンブルグ	29	キプロス
5	カナダ	30	バルバドス
6	スウェーデン	31	チェコ共和国
7	スイス	32	マルタ
8	アイルランド	33	ブルネイ
9	ベルギー	34	アルゼンチン
10	米国	35	ハンガリー
11	日本	36	ポーランド
12	オランダ	37	チリ
13	フィンランド	38	エストニア
14	デンマーク	39	リトアニア
15	英国	40	カタール
16	フランス	41	アラブ首長国連邦
17	オーストリア	42	スロバキア
18	イタリア	43	バーレーン
19	ニュージーランド	44	クウェート
20	ドイツ	45	クロアチア
21	スペイン	46	ウルグアイ
22	香港(中国)	47	コスタリカ
23	イスラエル	48	ラトビア
24	ギリシャ	49	セントクリストファー・ネイビス
25	シンガポール	50	バハマ

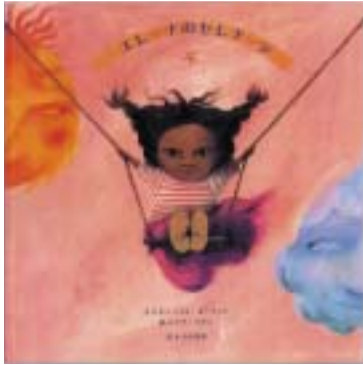
GEM (ジェンダー・エンパワーメント指数)

順位	国名	順位	国名
1	ノルウェー	26	リトアニア
2	デンマーク	27	ポーランド
3	スウェーデン	28	ラトビア
4	アイスランド	29	ブルガリア
5	フィンランド	30	スロベニア
6	ベルギー	31	ナミビア
7	オーストラリア	32	クロアチア
8	オランダ	33	スロバキア
9	ドイツ	34	チェコ共和国
10	カナダ	35	エストニア
11	スイス	36	ギリシャ
12	米国	37	イタリア
13	オーストリア	38	メキシコ
14	ニュージーランド	39	キプロス
15	スペイン	40	パナマ
16	アイルランド	41	マケドニア
17	バハマ	42	タンザニア
18	英国	43	日本
19	コスタリカ	44	ハンガリー
20	アルゼンチン	45	ドミニカ共和国
21	ポルトガル	46	フィリピン
22	シンガポール	47	ポリビア
23	トリニダード・トバゴ	48	ペルー
24	イスラエル	49	ボツワナ
25	バルバドス	50	ウルグアイ

『エレーナのセレナーデ』

キャンベル・ギースリン文 アナ・フアン絵 小島希里訳 B L出版 2004年

女性会館図書コーナー、中央、藁科、西奈、長田、北部、南部、清水中央、清水興津の各図書館所蔵



表紙でブランコに乗っている女の子が主人公のエレーナです。太陽の国メキシコらしさがあふれる背景と彼女のまっすぐ前を見つめる目がこれから起きる物語を暗示しています。

エレーナは、父さんのようなガラス吹きになりたいのに、父さんは「女のガラス吹きなんか聞いたことがない。」と取りあってくれません。ところが兄さんはちゃんとアドバイスしてくれました。そこで、エレーナは、兄さんの服を借りて男の子に見えるようにして、職人の町モンテレイへと旅に出ます。途中に出会うとてもゆかいな仲間たちに何度も勇気づけられ、その言葉が心の支えになってモンテレイに着いた時、男の人たちがからかう前で、上手にやっつけてのけることができました。

成功したエレーナは、父さんに認めてもらうために再び男の人に変装しなくてはなりません。夢を実現するために、性差別にめげず、知恵と勇気をふりしぼったエレーナは、魅力的な人生のお手本といえるでしょう。

(文:清尚子)

『パパのカノジョは』

ジャニス・レヴィ作 クリス・モンロー絵 岩崎書店 2002年

女性会館図書コーナー、中央、御幸町、西奈、北部、南部、清水中央、清水興津の各図書館所蔵

パパのカノジョ...それは、女の子としては、すぐに認められるものではないでしょう。趣味もファッションも価値観も、はじめはすべてにダメ出し。でも、テレビを消して話を聞いてくれたり、ひみつは秘密にしておいてくれたり、あっと驚くような芸術的なものを一緒に作ってくれたりするパパのカノジョのことを、女の子は少しずつ好きになっていきます。日々の小さな出来事の繰り返しのなかで、お互いを認め合い始めた二人。年齢を超えて、人間同士として向き合っていくカノジョと女の子の関係が、さりげなく描かれています。

新しい家族の誕生の話。家族のかたちは、今さまざまに変わろうとしています。大切なのは家族形態ではなく、お互いをどう受け入れ、どう関わりを持つか、多様性を受け入れられる心のやわらかさと、愛なのではないでしょうか。

人がわかりあえていく瞬間ってステキ!男も、女も、子ども!

(文:朝倉久美子)



『本の会』です。よろしくお願ひします。

「本の会」は、静岡市で初めて誕生した15名の学校司書の自主研修グループです。採用された平成10年から活動しています。当時、教育長から学校図書館への熱意あふれることを頂き、私たちは、パイオニアとしての責任をひしひしと感じ、身のひさしまる思いで各学校に向かったことを覚えています。

その後加わったメンバーを交え、現在も、本の情報交換やレファレンス能力を高めるため、月1回、勉強会を持っています。それぞれ、資料を「持ち寄り」、情報や回答を「分かち合い」(共有)ながら、よりよい学校図書館を築こうと努力してきて、今年で、8年目をむかえました。私たちが、今年、このコーナーを担当することにより、男女共同参画の視点で、本の勉強ができることを嬉しく思っています。どうぞよろしくお願ひします。

今回のテーマは、固定観念にとらわれず、幸せになる方法。女の子の生き方、日常と夢について書かれた本を紹介しました。

(文:柳井登志)